

<http://www.womensoutdoornews.com/2017/05/vera-koo-faith-god/>

My Faith in God

私の信仰

こちらのコラムはベラ・クーのシリーズです。年末近くには出版される彼女の回想録に関連した内容での4回目の投稿になります。ベラは射撃界でとても心の優しい優雅な女性ということでも知られています。この投稿ではベラが悲慘な体験をした後、いかに心の平穏を見出したかが説明されています。Woman's Outdoor Newsは宗教関連の出版会社ではありませんが、ベラの意味を尊重して紹介します。~ Barbara Baird



私は特に宗教観というものなく育ちました。私の人生のうちほとんどが神やイエス・キリストとは関係がありませんでした。それは23年前、私が一番痛々しい思いに苦しんでいた時期に変わりました。

人生観の根幹を揺るがすほどの、悲慘な危機的体験に遭いました。その後私はゾンビのようになり、自分の殻に閉じこもりっきりで、セラピーに通いました。

表向きには、家族や友人を守るため平常を装うようにしていました。私の悩みを外の世界に晒したくないと思ったからです。でも自分の中では死にかけていました。自分の周りは暗く冷たく感じました。

当時、友人の一人であるローズ・ジーン・フォンはクリスチャンガイドという小冊子を送り始めました。小冊子の随所に、祈りの力や神との対話についてなどが書かれていました。

私は試しにお祈りしてみようと思いました。試しに祈って怪我する訳でもないし、とにかく助けが必要でした。



ある日私は跪いて神に祈りを捧げました。祈りの後から小さなことですが、周りでのいいことが起こり始めました。あの頃落ち込みに落ち込んでいた私の人生に、小さいけれども良いことという神の賜物を受けました。そのおかげで一日を乗り切ることができました。

私が本格的に射撃に取り組もうかと思っていた矢先にその惨事は起こりました。私は惨事から逃避できる安全なひと時として射撃の練習をしに行きました。射撃の練習を

している間は不思議と人生のいろんなトラブルから自分を切り離すことが出来たのです。

同時に自分と神との関係を深めることを続けました。

私が競技射撃に出会ったのは神の導きだと考えています。 神そして射撃が私を救ってくれました、長い回復への道を案内してくれました。



神は出来ないことを与えません。 神とイエス・キリストは人生の苦難を取り除いてはくれませんが、助けてくれます。

23年前のあの時、自分の中で爆発したのは、私が自分らしく生きることができるよう、神が導いてくれたのだと、今になって思います。 あの惨事がなければ、こんなに射撃のキャリアを積んでいくことはなかったでしょう。 そして、おそらく神と出会うこともなかったでしょう。

痛みはありましたが、あの惨事を乗り越えたということは大変価値がありました。

生きていく中での試練は、神から与えられた教訓なのです。



神と出会う前に試練は乗り越えたのですが、やはり神が陰で力を与えてくださっていたからと思います。夫のカルロスと私は第一子ブライアンを乳児期に病気で失いました。私は当時クリスチャンではありませんでした。

ブライアンを失ったことは、様々のことについて、与えられて当然と思っはいけないという教えだったと思います。時に私は欲求を満たすために行動をするのが早すぎるのかもしれませんが。神は祈ることと静かに熟考することが良いことを私に知らせてくれました。ブライアンと過ごした短い期間は、一秒一秒を大切に生きることがどれだけ尊いかを証明してくれました、

私は神とイエス・キリストの祝福を受けるという体験をして幸せ者です。長い間誰にもいわなかったのですが、イエス・キリストを目の当たりにしたのです。クレイジーと思われたく無いので、誰にも言わなかったのですが。

でも私は、神との関係について、誇りに思っています-恥じる思いはありません。時が経つにつれて、自分の経験をシェアすることに抵抗がなくなってきました。人々が私のことを判断したいんだったらさせておけば良いのです。



私が最初にキリストに会ったのは、1998年カリフォルニアでのスティールチャレンジマッチでした。スティールチャレンジではスピードを競いますが、私は狙いの正確さにも重点をおきます。私の強みはスピードより正確さです。

撃つ順番は自分のチームで8番目で、ギャラリーはシューター達が撃つのを見学していました。私は静かな場所を見つけて祈りました。神が私にエネルギーを与え、集中して落ち着いた状態で撃つことが出来るようお守りくださいと祈りました。

10分間祈り、目を開いた時世界はなくなってしまったかのようなようでした。音が消え、人々の顔は消え去りました。一人だけ顔が見えたのが石に座ったキリストでした。キリストの髪は茶色で肩まであり、白いローブを身にまとっていました。キリストは私が撃つ場所まで歩み寄ってきました。こちらに近づいてくる間、私はすっかり平和な気持ちに浸りました。私がシューティングベイに入るとキリストは消えて生きました。

私の穏やかな感覚は残っていました。

一度撃っている間にピストルがジャムを起こしたけれど、これまでにない速さでクリアしました。

自分の順番が終わった時はどれくらい正確に撃てたのか定かではなかったのですが、人々が拍手をしているのが聞こえてきました。そしてスコアを見たら、なんとパーフェクトでした。私のパフォーマンスは、これまでの自分のものと比べてかなり良いものでした。もし少しでも信じていない気持ちがあったなら、私はダメだったでしょう。神が寄り添ってくれたのです、そして私は神に喜んでついていこうと思いました。



キリストは翌春再び姿を現してくれました。 Mickey Fowlerの牧場でビアンキカップに向けて練習をしていました。 夕方のことでした。 そこで練習していたのは私だけでした。 練習を終えて牧場を去ろうとした時、セーフティーバーンより向こうの木陰に何かあることに気づきました。 オークの木にキリストの像が見えました。 キリストは棘の王冠をかぶって両手を広げていました。

私は跪き祈りました。

その日はイースターの日曜日でした。

神には人々のための計画があります。 神がもたらす計画が常に私たちが喜ぶものかと言ったらそうでは無いかもしれないけれど、神をあなたの人生の中に受け入れると、一歩一歩共に歩んでくれるのです。

ベラのさらなる思い出はこちら (<http://www.womensoutdoornews.com/category/won-guns/vera-koo-won-guns/>) から。